



だと思っんです。

あそう：戸田市は、全国学力学習状況調査で県内トップレベルの成績を上げるなど教育改革が進んでおりますが、その改革を加速させる意味でも、ボトムアップを充実させていくことができないでしょうか。教育現場の福祉に対する理解促進や、専門資格を持つ専門員の増員など支援体制の整備は、まだまだ不十分だと実感しています。教育委員会の中に子育て支援を行う福祉系の課をつくることなどを考えてもいいと思います。また、行政が縦割りのため、福祉サービスを受けるのにも多くの書類を提出しなければなりません。福祉の窓口では役所内の情報共有によってワンストップで手続きできるようにすべきだと思います。一つひとつ着実に改善していきたいです。

すがわら：いいですね！浅生さんのキャッチフレーズ

は「戸田っ子の笑顔に全力！」でしたよね。地元で美容院を経営しながら人を笑顔にしてきた浅生さんは、困っている人を見ると助けずにはられない熱血漢でもあります。そんな浅生さんだからこそ、戸田市政をさらに改革、改善できると大いに期待しています。心から応援しています！ぜひとも頑張ってください！

あそう：はい。生まれ育った戸田市に笑顔をもっとあふれさせるために、一生懸命頑張ります。本日はありがとうございました！

【平成28年12月2日 埼玉県庁にて】



戸田っ子の笑顔に**全力**

あそ

無所属

新人

和英

かず ひで

政策対談

あそと和英×すがわら文仁

戸田っ子の健全な成長を支える街に



# あそと和英

スマイル計画 2017

## 教育と子育て

子ども会やPTA、子ども福祉の専門家として、現場で活動してきました。未来につながる戸田のために、教育や子育て環境を充実させていきます。

## 福祉と医療

美容師、社会福祉士、精神保健福祉士としての経験を活かして、だれもが住み慣れた地域で不安なく暮らせる戸田をつくります。

## 安心と安全

子ども見守り隊や防災士として、暮らしの安全・安心を見つめてきました。犯罪や事故をなくし、災害に強いまちにします。

## 地域と緑

豊かな自然と地域の絆で育ちました。ふるさと戸田がもっと魅力的で住みやすく誇れる街になるために、市民が地域で活躍できる場をつくります。

## 行政と議会

経営者として顧客満足を追い求めてきました。市民目線で無駄を省き、質の高いサービスを生み出し、行政と議会の改革を進めます。

※政策の詳細はあそと和英のホームページをご覧ください。

あそと和英

検索

## あそと和英後援会

〒335-0034 埼玉県戸田市笹目6-3-4

TEL 048-422-0757

ホームページ：http://asokazuhide.com

メール：info@asokazuhide.com 討議資料

## 埼玉県議会議員

# すがわら文仁

ふみ

ひと



# 「戸田っ子の健全な成長を支える街に」

## 福祉の専門家としての問題意識

**あそう**：本日は貴重なお時間ありがとうございます。菅原県議の熱心な活動、いつも拝見しています。今日は私たちが育った戸田の子どもたちの未来について、お話をさせていただきたいと思います。

**すがわら**：私たち子育て世代にできることは何か、一緒に考えてまいりましょう。どうぞよろしくお願いいたします。これまであそうさんは、子ども会支部長、PTA 会長、市 P 連副会長、子どもの安全見守り隊など、積極的に「子ども」に関わってこられました。そして戸田市で初となるスクールソーシャルワーカー（以下、SSW）として、教育現場で子どもの課題解決に携わってこられて、私にも現場の課題についてご教示いただきました。SSW 第 1 号として教育現場に勤務されていたことについて教えてください。

**あそう**：私は社会福祉士でしたので、適任だということでご推薦をいただき、教育委員会の中にただ一人、配置されておりました。市内に 18 ある小学

校、中学校で課題を抱えている生徒とごご家族に寄り添いながら、課題を把握して必要な福祉サービスを紹介するなど、人と支援の手をつなぐ役割を行っておりました。

**すがわら**：我が国全体の問題として今、「子どもの貧困」が拡大しています。現在の日本の相対的貧困率は約 16% と、



実に 6 人に 1 人が貧困状態にあると調査結果が出ています。特に、私が解決すべきだと思っているのが貧困の連鎖です。貧困家庭に生まれ育つと大人になっても貧困から抜け出せないというのは、社会の階層化、固定化に繋がってしまいます。どんな家庭に生まれても、努力すれば報われるようにするのは政治の責任だと思います。

**あそう**：そうですね。特に低年齢期の支援体制の整備は急務です。戸田市内では 2016 年 11 月から、全国に先駆けて子どもの貧困対策プロジェクトとして“家でも学校でもない、子どもの第三の居場所”

**ボトムアップを充実して  
教育改革を加速したい**

あそう和英

1968 年生まれ (48 歳)。笹目小学校・美笹中学校卒業。県立大宮高校卒業。法政大学卒業後、山一証券(株)に入社。バブル崩壊を機に美容師として独立、戸田市内に美容室「VASE」を開業し 18 年目。社会福祉士、(前)戸田市 PTA 連合会副会長。(前)美笹中 PTA 会長。

の整備事業がスタートしました。私も地域の社会福祉士としてプロジェクトに参加しています。支援を必要とする子どもに安心できる居場所を提供し、その子に適した環境の整備に全力で取り組んでいます。

他市の例ですが、新学期を迎える時期に、上履きを買うための数千円が捻出できず、小さくなった上履きのかかとを潰して履き、短い体操着をずっと着ている子がいます。またスパイクが買えなくて部活をあきらめる子もいます。これが今、先進国日本で現実としてあることなのです。そのような問題を抱える家庭環境が、不登校やいじめ、ネグレクト

**大切なのは徹底的に  
義務教育をやること**

すがわら文仁

1975 年生まれ (41 歳)。美谷本小学校、美笹中学校卒業。県立伊奈学園総合高校卒業。日本体育大学卒業(教員免許)、明治大学大学院修了(公共政策学修士)。戸田市議会議員を経て埼玉県議会議員 2 期目。会派「無所属県民会議」総務会長。福祉保健医療委員。

などの虐待の原因になる事もあります。結果、心身の健康が悪化して、自己肯定感が低下し、物事に取り組んでも、すぐにあきらめる癖がついてしまうことにもつながります。先生も忙しくて見過ごしてしまったり、家庭には介入できないために手の出しようがなかったりします。

## 子どもへの支援が社会の利益に

**すがわら**：財源が厳しい折、社会全体の理解を得ないとこれらの支援に対する財源を生み出すことは難しいでしょうし、もちろんばら撒きはダメです。しかし私は、子ども達への支援は必ず社会の利益となる投資だと考えています。特に年少期の支援が重要だということで、そのエビデンスも出揃ってきています。逆にいうと子どもの貧困の放置は、国全体として労働生産性が落ちることや社会保障費の増加の原因となり、社会の損失に繋がってしまいかねません。和光市は、妊娠期から出産、子育て、就学までの切れ目のない支援を行う拠点、通称「ネウボラ」を整備して、ひとり親

支援や子育ての相談を行っており、虐待予防にも効果があるようです。他方で、何よりも基本中の基本は、やはり徹底的に義務教育をしっかりとやることだと私は思います。親の所得によって機会が失われるような義務教育には、絶対にさせないことが大事

